

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

2022/10/31
りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは10月31日（月）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		10月28日現在 (矢印は9月末比)	11月の予想
USD	ドル・円 (円)	↗ 147.60	↗ 142.00 ~ 152.00
	FRBが利上げ幅を縮小できるかはデータ次第で月後半は反騰		
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↗ 0.997	↘ 0.93 ~ 1.03
	ユーロ・円 (円)	↗ 147.00	↗ 140.00 ~ 150.00
	エネルギー問題等の懸念は後退も、月後半はユーロ反落を見込む		
GBP	ポンド・ドル (ドル)	↗ 1.162	↘ 1.10 ~ 1.20
	ポンド・円 (円)	↗ 171.37	↗ 160.00 ~ 175.00
	スナク首相の下で経済立て直しを図るが、不安も残る		
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	↗ 94.58	⇒ 93.00 ~ 97.00
	NZドル・円 (円)	↗ 85.77	⇒ 84.00 ~ 88.00
	景気減速の鮮明化と金融政策格差が綱引きの時間帯		
株式 相場	日経平均 (円)	↗ 27,105	↘ 26,000 ~ 29,000
	海外市場の影響を受け軟調推移も、相対的には底堅い		
	NYダウ (ドル)	↗ 32,862	↘ 28,000 ~ 33,000
長期 金利	中間選挙結果や利上げ減速期待の後退から上値重い		
	日本 (%)	⇒ 0.241	⇒ 0.16 ~ 0.26
	黒田総裁在任中の政策変更の可能性は一層低下		
	米国 (%)	↗ 4.012	↗ 3.50 ~ 4.50
	FOMCや中間選挙で低下も利上げ減速期待修正で月後半は上昇		

◆ 今月の注目ポイント

主要国中銀のスタンス変化の流れは続くか

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気	○	【景気悪化の深度】主要国の金融引締めが続く中で一定の景気悪化は既に想定されており、経済指標から景気悪化の深度を見極める。
金融政策	◎	【FOMCと主要国中銀会合】2日に開催されるFOMCでは引き続き0.75%利上げが確実視されるが、焦点は次回12月会合以降の利上げペース減速が示唆されるか。労働市場のひっ迫が続きインフレ率も高い中でインフレ抑制スタンスは変わらないとみられる。ただし先月のユーロ圏やカナダの会合でも引締めトーンに変節もみられ、FOMCでも利上げペースの減速が示唆されると金融市場では主要国でのハト派中銀を意識したムードとなりやすいだろう。月初には豪州、英国でも会合が予定され結果が注目される。
政治	○	【米国・中間選挙】足元の情勢では少なくとも下院は共和党が勝利する可能性が高く、大統領と議会のねじれから今後の法案成立は難しくなることが想定される。結果による金融市場の反応は限定的とみるが、2024年の大統領選に向けた両党の動きも徐々に注目されるだろう。

◆ アジア通貨見通し

人民元・円	↗ 19.70 ~ 20.70	ルピー・円	↗ 1.73 ~ 1.83
バーツ・円	↗ 3.70 ~ 4.10	ウォン・円	↘ 9.95 ~ 10.55
ルピア・円	↗ 0.93 ~ 0.97		

◆ 今月の重要日程

1日 (火) 豪	RBA理事会	10日 (木) 米	10月CPI
2日 (水) 米	FOMC (結果発表)	15日 (火) 日	22/3Q GDP (1次速報)
3日 (木) 英	BOE金融政策委員会	15日 (火) 中	10月生産・小売・投資
4日 (金) 米	10月雇用統計	16日 (水) 米	10月小売売上高
8日 (火) 米	中間選挙	18日 (金) 日	10月CPI
9日 (水) 日	10月景気ウォッチャー調査	30日 (水) 中	11月PMI

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

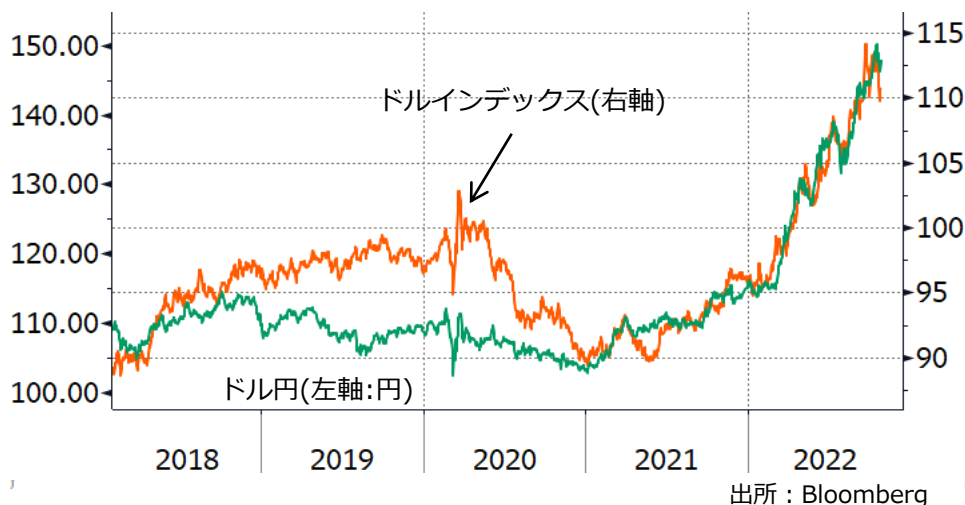
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円



ドル円は上昇

142.00 – 152.00円

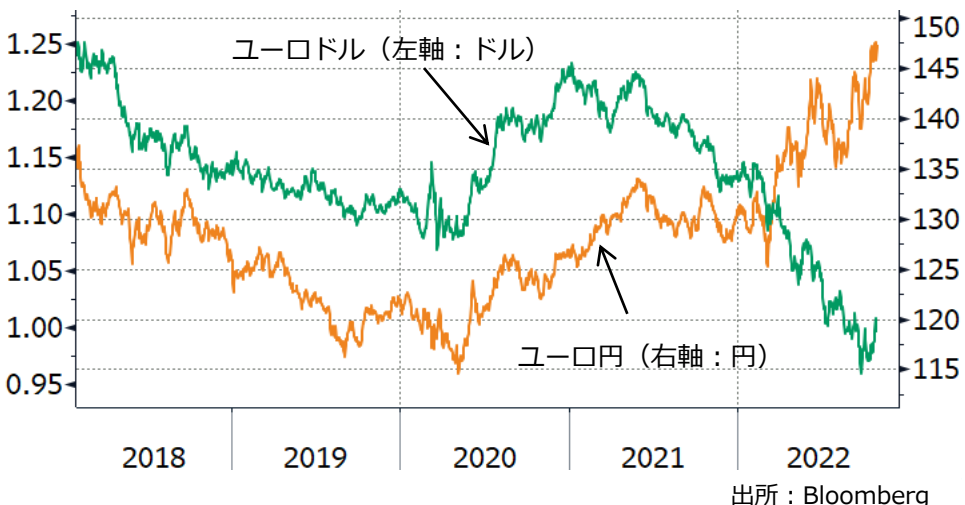
FRBが利上げ幅を縮小できるかはデータ次第で月後半は反騰

10月のドル円相場は日米金利差の拡大を背景に、一時32年ぶりの円安水準となる152円台をつける場面もあった。一方、財務省による為替介入と見られる動きが断続的に入ったことや、FRBが利上げ幅の縮小議論を開始すると一部の報道等により反落し、145円程度まで下落する場面もあった。

為替介入への警戒感からJPY売りの勢い鈍化しているなか、利上げ幅の縮小議論が浮上しFRBのタカ派姿勢後退と捉えられれば、ここまでのUSD独歩高基調の修正からドル円は下落圧力が強まろう。軟調推移していたEURが持ち直しつつあることもUSD安要因として作用する。

一方、実際に12月にFRBが利上げ幅を縮小できるかはデータ次第の側面が強い。10月は米国の雇用統計やCPIが予想を上回る結果となり、FRBの利上げ期待の高まりとUSD高に寄与した。今月も同様の結果であれば、茲許高まってきた利上げ幅縮小期待は後退し、再度USD買戻し基調が強まる可能性がある。日銀の金融緩和姿勢には変化がなく、国内の金利上昇圧力も一服しつつあるなか、FRBの姿勢の変化が明確に見られるまではドル円上昇基調は変わらないだろう。月後半以降はドル円反騰と予想する。

ユーロ



ユーロドル



ユーロドルは下落

0.93 – 1.03ドル

ユーロ円



ユーロ円は上昇

140.00 – 150.00円

エネルギー問題や英国不安は後退も、金融政策は欧米ともにデータ次第

10月のEUR相場は米国FRBの利上げ加速への思惑が出る中でUSD高を背景に軟調に推移したが、利上げ幅縮小に対する思惑が台頭するとUSD高の一服とともにEURは一時バリエイ(1.0)を回復する場面もあった。

10月末のECB理事会では2会合連続となる0.75%利上げを決定し、預金ファシリティ金利は2009年以来の1.50%まで上昇した。12月会合ではB/S縮小方針に関する原則を決定するとし、他主要国比で出遅れていた金融引締めの方針を固めていくと見られる。引締め先行していたFRBが利上げ幅の縮小に向かえば、相対的なEUR高要因となろう。また、英国の財政問題や冬場のエネルギー不足といった懸案に足元でやや一服感が出ていることも、EURの下支えとなろう。

ただし、欧州経済が減速に向かっていることは変わりがなく、FRBが利上げ幅を縮小できるかどうかでもデータ次第の側面が強い。月後半にかけては徐々に勢いを失い反落する展開を見込む。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

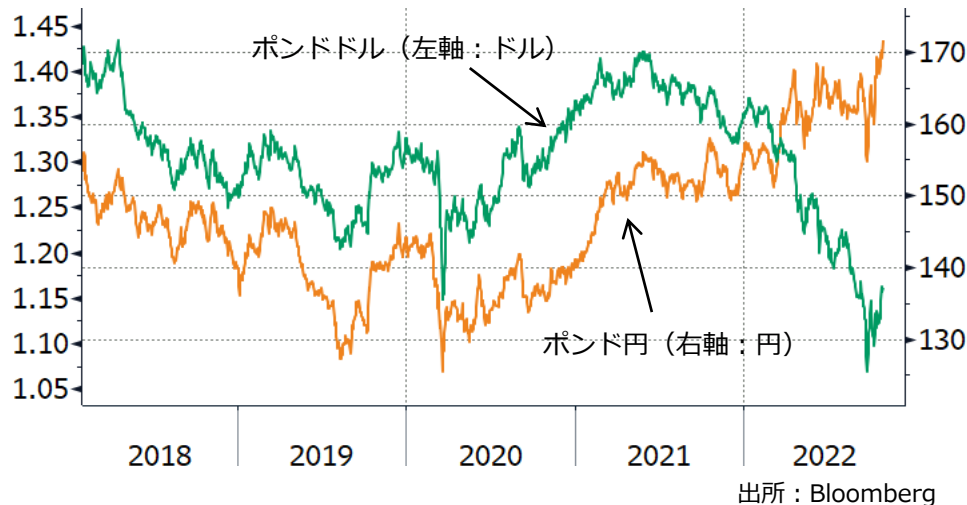
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポ ン ド



ポンドドル



ポンドドルは下落

1.10- 1.20ドル

ポンド円



ポンド円は上昇

160.00 - 175.00円

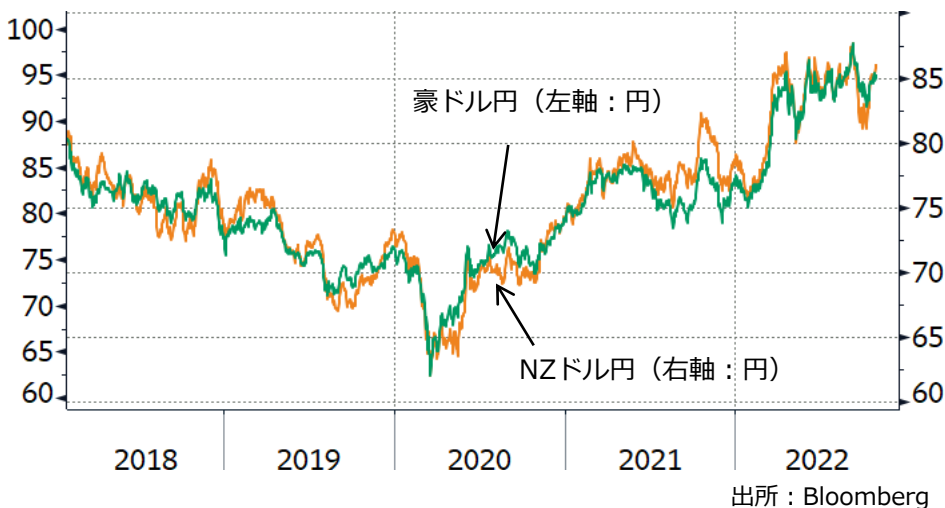
スナク首相の下で経済立て直しを図るが、不安も残る

10月のGBP相場は9月後半の底値から反発し、底堅い推移となった。財務相の交代、減税案撤回等、9月に大きく金利が上昇した要因の修正が図られたことが好感された。トラス首相自身も辞任し後任に財政健全派のスナク氏が就いたことで、英国の財政問題は徐々に鎮静化していくと見られる。

一方、与党保守党の支持率が大きく下落したことは今後の政治不安に繋がりがやすく、また11月には延期されていたBOEによる国債売却が開始される予定であることから、引き続き英国の金融市場はボラティリティの高い状況が続くことが予想される。公表が延期されている財政計画案の内容次第では、再び混乱が生じる可能性は残っている。

足元ではFRBの利上げ幅縮小に対する思惑が為替市場全体でのUSD高一服要因として作用し、欧州通貨の反発要因となっている面もあるが、FRBが実際に利上げ幅を縮小できるかどうかはデータ次第の側面が強く、こうした見方が後退する過程ではGBP反落要因となろう。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



豪ドル円



豪ドル円は横ばい

93.00 - 97.00円

NZドル円



NZドル円は横ばい

84.00 - 88.00円

景気減速の鮮明化と金融政策格差が綱引きの時間帯

10月の豪ドル、NZドルは対円で上昇。月初は豪中銀のハト派姿勢や米国FRBの金融引締め強化姿勢によるリスクセンチメント悪化を受け、両通貨は対円で軟調に推移した。その後、主要中銀の利上げペース減速期待が強まると、リスク資産の反発とともに豪ドル円、NZドル円も上昇に転じ、豪CPIの上振れによる豪中銀の利上げ継続期待も相場をサポートした。

11月の豪ドル、NZドルは対円でもみ合いを予想。主要中銀の利上げペースがピークアウトする可能性はあろうが、粘着的なインフレに対し利上げが長く続くリスクも意識されリスクセンチメント悪化につながる。また世界経済の減速がさらに鮮明化すると、資源需要減少からコモディティ価格下落につながり豪ドル・NZドルの重石となる。一方で、豪中銀もNZ中銀も利上げを継続すると見込まれ、金融政策格差の観点からは円に対する優位性が維持される。こうした両面の動きから総じて方向感の出づらいつ時間帯になりやすいだろう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

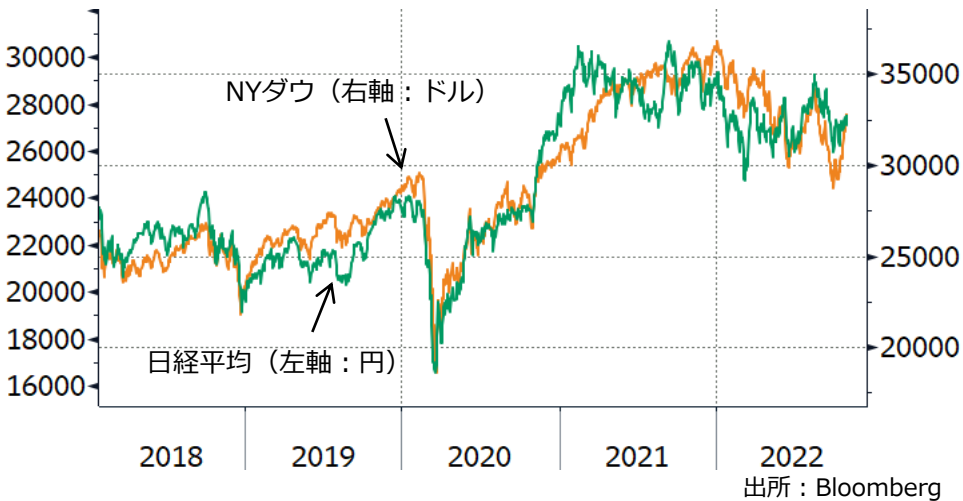
◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均



日経平均は下落

26,000 - 29,000円

海外市場の影響を受け軟調推移も、相対的には底堅い

10月は海外株価の持ち直しを背景に底堅い動きも、米国株との比較では相対的にアンダーパフォーム。円安進行に一服感が出たことや、共産党大会明けに公表された中国経済指標が減速傾向となったことも影響した可能性がある。今月は海外市場の反落につれて軟調とみるが、EPSが低下し始めている米国株と比較すればファンダメンタルズは堅調。30兆円規模の経済対策や外国人観光客の受け入れ再開による景気刺激が意識されると日本株には下支えとなろう。

NYダウ



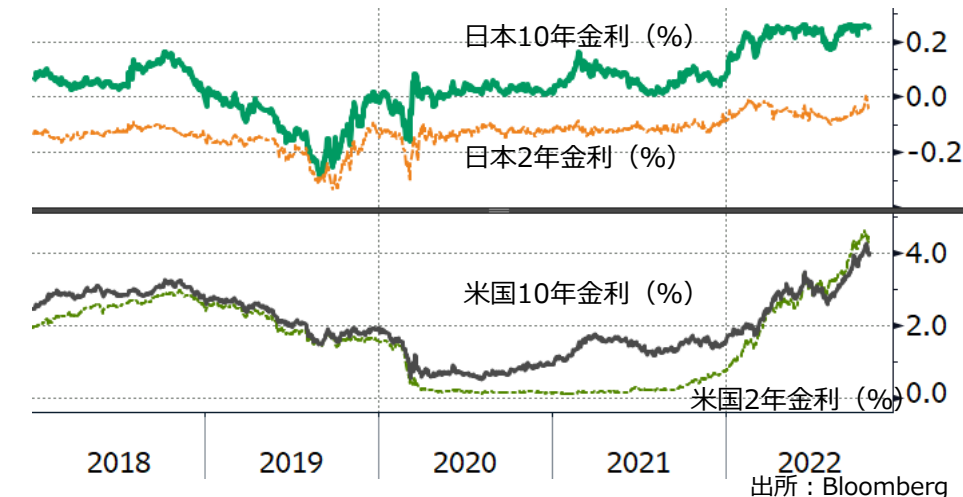
ダウは下落

28,000 - 33,000ドル

中間選挙結果や利上げ減速期待の後退から上値重い

10月の米国株式市場は、英国市場の混乱一服やFRBの利上げ幅減速期待の高まり等により持ち直し基調を強める場面があった。ただしインフレの鈍化が見通せないなかではFRBが利上げ幅を減速させるかは不透明であり、期待後退から株価反落となる可能性がある。中間選挙にて上下両院で共和党が勝利した場合はバイデン大統領との対立による政治的不安定化が嫌気されて株価下落要因となろう。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年



金利は横ばい

0.16 - 0.26%

黒田総裁在任中の政策変更の可能性は一層低下

海外金利の上昇や大幅な円安進行を受け、超長期金利中心に国内金利も上昇する場面が見られたが、海外金利の上昇一服や日銀の国債買い入れ増額、政策決定会合を無難に通過したこと等により買い戻しの勢いが強まった。引き続き黒田総裁の在任中は政策変更が行われる可能性は低く、国内長期金利は横ばいでの推移が続くであろう。

米国債10年



金利は上昇

3.50 - 4.50%

FOMCや中間選挙で低下も利上げ減速期待修正で月後半は上昇

足元では一部報道をきっかけに12月FOMCでの利上げ幅減速観測が高まったことで長期金利低下もみられる中、月初のFOMCで利上げ幅減速議論に関する言及があればハト派的と受け取られ、金利低下しやすいとみる。また、11/8の中間選挙で政治的不安定化が意識されると金利低下をサポートする可能性。ただしFRBが実際に利上げ幅減速させるかはインフレ動向次第であり、行き過ぎた利上げ減速と利下げ期待が修正されるにつれ月後半は金利上昇を予想。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		10/28		10月の相場推移		11月の予想	解説
中国	人民元/円	20.28	➡	20.07~20.90	➡	19.70~20.70	経済の低迷や米国との金融政策格差から10月のドル人民元は上昇し過去最高値（元安）を更新した。共産党大会後にもコロナ規制緩和の動きがみられず経済下押し圧力が依然として大きく、PBOCの更なる金融緩和策への期待が燦る。新指導部の経済運営に関する不透明感も人民元の重石となるだろう。11月のドル人民元は上昇（元安）基調となる公算が高い。
	ドル/人民元	7.267	➡	7.013~7.375	➡	7.05~7.35	
タイ	バーツ/円	3.887	➡	3.800~3.967	➡	3.70~4.10	10月のドルバーツ相場は1ドル37-38バーツ台でのみ合い。資源高による貿易収支の悪化はバーツ安要因の一方で、リスクセンチメントとの改善によるドル高一服は新興国通貨全般の支えとなった。今月のドルバーツ相場は下落とみる。景気にストレスがかかる中でも外貨準備の水準等のファンダメンタルズ要因ではバーツに優位性があり、ドル高一服の流れの中では買い戻し入りやすいと予想。
	ドル/バーツ	37.90	➡	37.12~38.47	➡	36.5~39.0	
インドネシア	100ルピア/円	0.948	➡	0.933~0.972	➡	0.93~0.97	10月もルピア安基調となる中で、インドネシア中銀は10月会合でも前回に続き0.50%の大幅利上げを実施。米FRBとの金融政策格差の縮小を図ろうとしたが、ドル高環境の中で為替相場への効果は限定的。インドネシア当局は介入に踏み切る可能性があるが、世界経済の減速に伴いコモディティ需要の鈍化がルピアの逆風となるなか、今月もドルルピアの上昇トレンドは変わらないとみる。
	ドル/ルピア	15,552	➡	15,162~15,634	➡	15,250~15,750	
インド	ルピー/円	1.790	➡	1.758~1.837	➡	1.73~1.83	継続的な貿易赤字やドル高地合いの継続からドルルピーは10月に再び過去最高値を更新。ルピー安の中でも外貨準備減少の観点からも中銀は介入を控えるとの思惑は出やすく、ルピーは対ドルで引き続き下落しやすい。ただし、インフレ対応の観点からはインド中銀は金融引締め的なスタンスを取りうる。その場合ルピー安圧力緩和につながる可能性もあることから動向は注目される。
	ドル/ルピー	82.47	➡	81.36~83.29	➡	81.50~83.50	
韓国	100ウォン/円	10.37	➡	10.00~10.55	➡	9.95~10.55	10月のドルウォン相場は約13年ぶりのウォン安水準ながらもみ合いとなった。円安進行により対円では上昇した。韓国中銀はウォン安とインフレ対応から10月会合では利上げ幅を0.50%に拡大させ、政策金利を2012年以来の3.00%としたものの、必ずしも引締め強化が通貨高にはつながっていない。ウォン相場はドルの動向次第の面大きく、11月末にかけては再びウォン安推移しやすいと予想。
	ドル/ウォン	1,422	➡	1,397~1,445	➡	1,400~1,500	

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

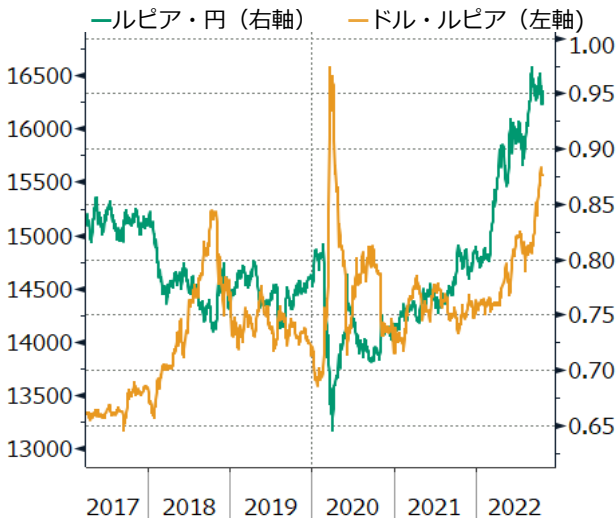
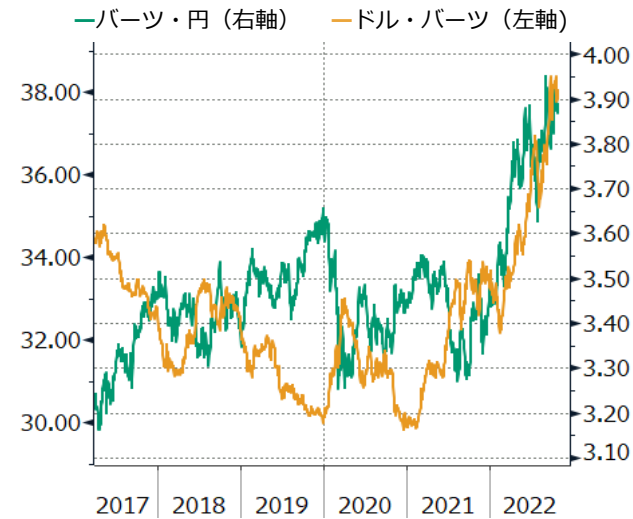
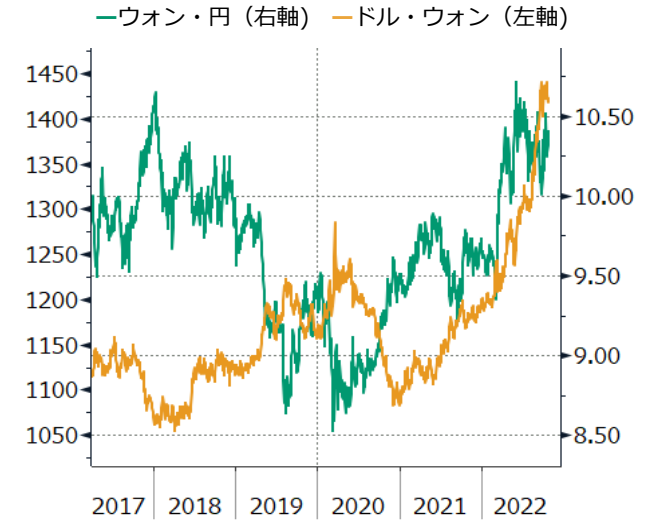
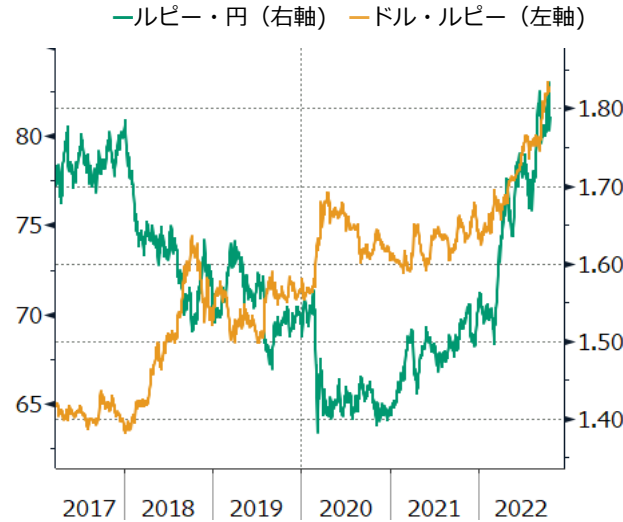
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ 新興国通貨チャート



© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否にかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2022年11月号)

◆ 年間為替見通し

		2022年	2023年				ポイント
		11～12月	1～3月	4～6月	7～9月		
ドル円	レンジ	135～155	135～160	125～145	125～145	FRBは徐々に利上げ幅縮小を模索。年明け以降は日銀の政策変更も意識され徐々に下落。	
	期末値	150	140	138	135		
ユーロドル	レンジ	0.90～1.10	0.95～1.15	0.95～1.15	0.95～1.15	欧米ともに年内は利上げを継続するも、年明け以降は利上げ停止へ向かう。欧州経済はより景気減速の懸念が強く、上値は重い。	
	期末値	1.00	1.05	1.00	1.05		
ユーロ円	レンジ	125～155	120～150	120～140	120～140		
	期末値	150	147	138	142		
ポンドドル	レンジ	0.90～1.20	0.95～1.25	1.05～1.25	1.05～1.25	スナク首相の下で混乱した経済や市場の立て直しを図るが、BOEの国債売却開始もあり、不安要素は残る。当面は上値の重い展開を見込む。	
	期末値	1.05	1.10	1.15	1.15		
ポンド円	レンジ	140～170	140～170	145～175	140～170		
	期末値	158	154	159	155		
ドル人民元	レンジ	7.00～7.50	6.90～7.40	6.70～7.20	6.60～6.90	コロナ規制が中国経済に下押しとなることや中国人民銀行による緩和姿勢から人民元は弱含み。一方、FRBの積極利上げ姿勢を受けたドル高が年末までつづく。来年はコロナ対策の修正による中国経済の回復や米利上げ一服に伴うドル高一服でドル人民元は下落に転じる。	
	期末値	7.30	7.10	6.90	6.70		
人民元円	レンジ	18.0～21.0	18.0～20.5	17.5～20.0	17.0～19.5		
	期末値	20.5	19.7	19.5	18.7		
豪ドル円	レンジ	86.0～97.0	83.0～93.0	80.0～90.0	80.0～90.0	豪州中銀の利上げペースの減速や世界景気減速懸念の強まりで豪ドル円は徐々に下落へ	
	期末値	87	85	86	85		
タイバーツ円	レンジ	3.50～4.10	3.50～4.20	3.40～3.90	3.40～3.90	当面ドル円の動きに連れやすく来年にかけては対円相場下落を見る。観光再開期待はパーツの支えに	
	期末値	3.85	3.70	3.60	3.50		

◎ 注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
11/1(火)	10年債入札	10月ISM製造業景況指数	(豪) 準備銀行理事会 (中) 10月製造業PMI
11/2(水)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (9/21~22開催分)	10月ADP雇用統計 FOMC (結果発表)	
11/3(木)	(文化の日)	10月ISM非製造業景況指数 9月製造業受注 9月貿易収支	(英) BOE金融政策委員会
11/4(金)		10月雇用統計	
11/6(日)		(夏時間終了)	(中) 10月貿易統計
11/7(月)			
11/8(火)	9月家計調査 9月毎月勤労統計 (速報)		
11/9(水)	10月景気ウォッチャー調査 30年債入札		(中) 10月CPI
11/10(木)		10月CPI	
11/11(金)	10月企業物価指数	(退役軍人の日)	
11/14(月)			
11/15(火)	5年債入札 7-9月期GDP (一次速報値)	10月PPI 11月NY連銀製造業景況指数	(欧) 7-9月期GDP (速報値) (中) 10月生産・小売・投資 (独) 11月ZEW景況指数

	日本	米国	その他
11/16(水)	9月機械受注	10月小売売上高	
11/17(木)	10月貿易統計 20年債入札	10月住宅着工・許可件数 11月フィラデルフィア連銀製造業景況指数	
11/18(金)	10月消費者物価指数	10月中古住宅販売	
11/21(月)			
11/22(火)			
11/23(水)	(勤労感謝の日)	10月新築住宅販売 FOMC議事要旨	(欧) 11月PMI (速報値)
11/24(木)		(感謝祭)	(独) 11月IFO企業景況感指数
11/25(金)	40年債入札		
11/28(月)			
11/29(火)	10月労働力調査 2年債入札	11月消費者信頼感指数	
11/30(水)	10月鉱工業生産 10月住宅着工件数	11月ADP雇用統計 7-9月期GDP (改定値) 米地区連銀経済報告	(中) 11月PMI



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年11月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【10/7～10/13】

◎ 中国 1～8月の物流総額3.2%増

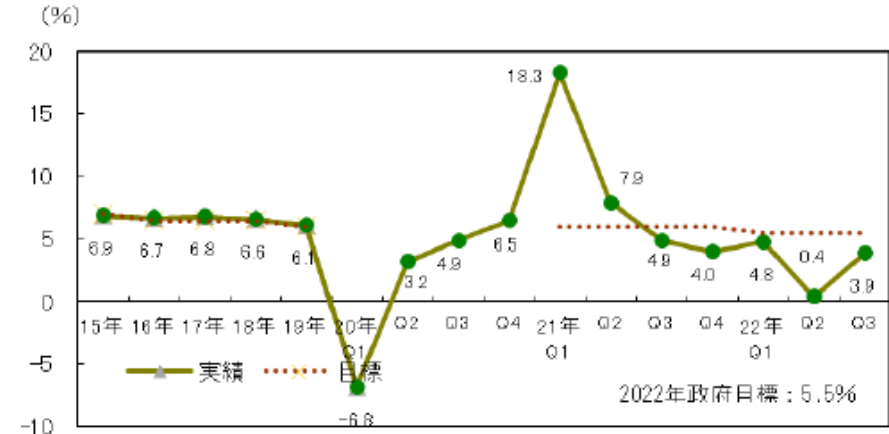
中国物流購買連合会によると、2022年1～8月の物流総額（流通した物品の価値総額）は前年同期比3.2%増の216兆4,000億元（約4,400兆円）だった。伸び幅は1～7月から0.1ポイント拡大。サプライチェーンが安定に向かった上、経済の安定に向けた一連の政策措置が生産と消費の拡大につながり、物流需要が上向いた。分野別で見ると、工業品分野と消費分野はそれぞれ3.6%、2.8%増だった。自動車製造業とハイテク製造業の物流需要の改善、また好調なインターネット通販が主な原因とみられる。

【10/14～10/20】

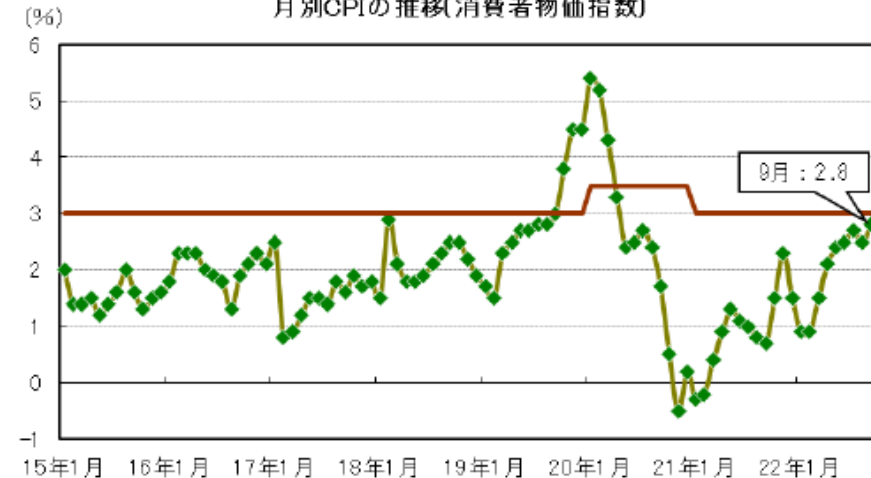
◎ 中小企業指数が横ばい推移、直近9月は前月比小幅下落

中小企業の景況感を示す中国中小企業発展指数（SMEDI）の9月の数値は88.2と、前月比0.1ポイント下がり、直近1年半の最低となった5月と同じ数値。国内外の経済下押し圧力や政府の経済安定策などといった複数の好悪材料が入り交じる中、直近月の中小企業の景況感は小さな範囲で一進一退の展開となっている。新型コロナ禍が中小企業に打撃を与え、需給の悪化や受注の低迷、コスト上昇などといった問題が出ていると指摘した。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年11月号)

& アジア・新興国FXフラッシュ

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【10/21～10/27】

◎ 中国 3 QのGDPは3.9%成長

中国国家統計局は24日、2022年第3四半期の実質国内総生産の成長率が前年同期比3.9%だったと発表した。第3四半期のGDPは30兆7,627億元（約632兆円）で、30兆円を超えるのは初めてである。新型コロナウイルスの大規模な流行を許さず、反動需要もあり、消費が一定の回復を見せた。ただ不動産の低迷は継続し、本来の力強い成長はまだ取り戻せていないと専門家の意見が出ているほか、また第4四半期の成長率について、「更に上向く可能性が高い」との予測もある。

◎ 海外人員の往来を利便化

中国政府は25日、海外ビジネスマンの中国往来の利便性を高めると発表した。新型コロナウイルスの防疫措置が取られているという前提で、多国籍企業や外商投資企業の経営幹部、技術人員とその家族の出入境について利便化を図ると表明した。地方政府には海外人員向けの「ファストトラック」を導入するよう求めた。現在煩雑な手続きが必要な出入境の政策が変わり、今後は出入境がスムーズになると考えられる。また投資環境の改善も継続し、物流等の方面で政府のサービスを強める方針。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2021/11	2021/12	2022/1	2022/2	2022/3	2022/4	2022/5	2022/6	2022/7	2022/8	2022/9
実質GDP成長率	%	-	4.0	-	-	4.8	-	-	0.4	-	-	3.9
消費者物価上昇率	%	2.3	1.5	0.9	0.9	1.5	2.1	2.1	2.5	2.7	2.5	2.8
都市部調査失業率	%	5.0	5.1	5.3	5.5	5.8	6.1	5.9	5.5	5.4	5.3	5.5
輸出額	10億ドル	324.8	340.2	326.7	217.0	275.3	272.7	306.6	330.0	332.6	314.9	322.8
輸入額	10億ドル	253.1	246.5	244.2	189.2	230.6	223.1	229.1	232.6	231.2	235.5	238.0
経常収支	100万ドル	-	317,301	-	-	88,875	-	-	166,373	-	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,222.4	3,250.2	3,221.6	3,213.8	3,188.0	3,119.7	3,127.8	3,071.3	3,104.1	3,054.9	3,029.0
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	6.39	6.37	6.36	6.34	6.35	6.44	6.71	6.70	6.73	6.80	7.02

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○これは深圳スピードです

深圳、広州に出張に行きました。深圳は2010年から12年ぶりです。過去旅行に行った時、印象に残ったのは斬新な街作りで、生き生きした雰囲気でした。今回はどのようになったか心から楽しみにしていました。実際行ったら、深圳の大きな変化に再度驚きました。10年あまり過ぎて、街の建設が更に進んでいて、林立した高層マンションや空にそびえるオフィスビル群も多くなり、さらに熱帯の雰囲気が漂う公園等も目に入りました。深圳に住む人々は本当に羨ましいなあと思います。

また進出する企業の形態はITやデジタル関連の企業、そのほか国営企業である、招商局港口（港湾企業）、深圳空港も集中し、さすが経済特区だなあと再度関心しました。今の風景をみて、過去ここが小さい漁村だったことは思いもよらなかったです。

深圳特区は1980年8月に設立して、42年も立ちましたが、過去を振り返り、発展を主導した鄧小平さんの話を引用して、「さすがに深圳のスピードだなあ」と言いたいです。

次回の深圳との再会を楽しみにしています。



○縄跳び、大変！

最近、一年生になったうちの子供は新しいスポーツに挑戦しています。それは縄跳びです。体育の先生は毎日の目標500回と言ったので、毎日練習しなければいけません。うちの子供は現在2、3回しか跳べない状態ですので、もっともっと練習しないといけません。この目標を達成するために、週末私は子供の縄跳びの先生をすることになりました。

まず自分が跳んで跳び方を教えてあげますが、子供はそのまま真似しても、なかなか上手になりませんでした。私はまた何回も跳んで子供に見せますが、子供の方は足がうまくコントロールできないようで、よく縄に絡まれます。

何回もやって、私は良い方法を考えだしました。

縄が土に着いた瞬間に、「跳んで！」と言うと、子供は声に従って跳べるようになってきました。前より良くなりましたが、500回の目標にはまだまだです。このように練習を繰り返して一時間経った後、こっちは足が棒になりへとへとになりました。

多分この練習はしばらく続くだろうと考えると、もっとつらくなりました。



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆タイ中央銀行が発表した2022年8月の経済報告によれば、国内経済は改善が続いているとの認識を示した。新型コロナウイルス感染症対策の活動制限の緩和を背景に、民間消費指数は前年同月比16.6%上昇した。旅行者の支出が5.8倍に増加した他、非耐久消費財を除き、耐久消費財、半耐久消費財、サービスのいずれも伸びた。民間投資指数は同9.7%上昇した。製造業を中心に設備投資は回復ペースが加速していることに加え、建設資材の販売も拡大した。鉱工業生産指数は同14.5%増となり、前月の同6.4%増から上昇。特に自動車、食品・飲料の生産が好調だった。一方で、ゴム・プラスチック製品等の化学製品の生産は減少した。

◆タイ商務省によると、2022年8月の輸出額は前年同月比7.5%増の236億3,270万米ドルと、前年同月で18カ月連続のプラスとなった。2022年1～8月の輸出額は前年同期比11.0%増の1,964億4,680万米ドルだった。上昇の要因として、農産物・同加工品、特に加工食品類は世界的な需要増で堅調を維持したこと、自動車やコンピューター、家電等の

部品輸出が回復したこと等が挙げられた。農産物・加工品の輸出は前年同月比4.6%増、主要工業製品は同9.2%増と大幅に加速した。増加した工業製品は乗用車（同60.3%増）、バイク（同22.7%増）、機械・部品（同15.6%増）、プリント基板（同25.1%増）等。一方、減少した工業製品はゴム手袋（同46.7%減）、化学製品（同8.2%減）等。国別では、米国向けの輸出額が40億200万米ドルと最大であり、前年同月比16.3%増加した。日本（同6.6%増）、欧州連合（同19.0%増）、東南アジア諸国連合（同19.1%増）、中東（同38.4%増）もそれぞれ増加した。中国への輸出額は27億2,400万米ドルで米国に次ぐ規模だったが、前年同月に対し20.1%減少。他に南アジア（同2.1%減）、アフリカ（同10.1%減）、ロシア（同21.6%減）もそれぞれ減少した。8月の輸入額は前年同月比21.3%増の278億4,810万米ドルで、貿易収支は42億1,540万米ドルの赤字となった。8月の対米ドル・パーツ相場は平均で1米ドル=35.85パーツで、前月の36.36パーツからパーツ高となった。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2021/11	2021/12	2022/1	2022/2	2022/3	2022/4	2022/5	2022/6	2022/7	2022/8	2022/9
実質GDP成長率	%	-	1.8	-	-	2.3	-	-	2.5	-	-	-
消費者物価上昇率	%	2.7	2.2	3.2	5.3	5.7	4.7	7.1	7.7	7.6	7.9	6.4
失業率	%	2.3	1.6	1.6	1.6	1.5	1.5	1.5	1.4	1.4	1.4	-
輸出額	100万ドル	23,723	25,419	21,259	23,483	28,860	23,521	25,509	26,553	23,629	23,633	-
輸入額	100万ドル	22,401	25,840	23,785	23,360	27,401	25,430	27,383	28,082	27,290	27,848	-
経常収支	100万ドル	380	-1,562	-2,541	-568	866	-2,087	-2,880	-3,126	-4,153	-3,500	-
外貨準備高	10億ドル	243.0	246.0	242.8	245.1	242.4	228.6	230.0	222.3	220.0	215.0	199.4
主要政策金利	%	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.75	1.00
対ドル為替レート	パーツ	33.1	33.6	33.2	32.7	33.3	33.8	34.4	35.0	36.4	35.9	37.0

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レボ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



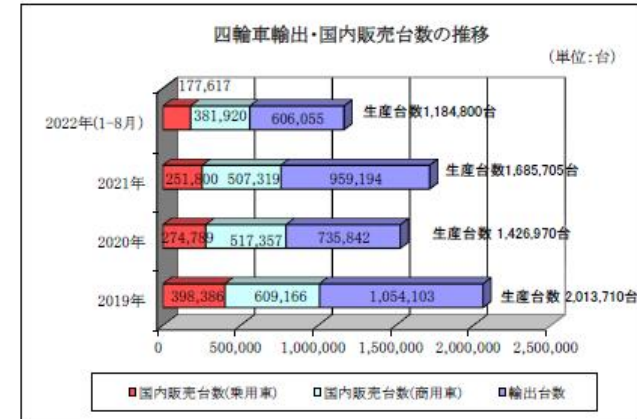
りそな マーケットフラッシュマンスリー (2022年11月号) & アジア・新興国FXフラッシュ

タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

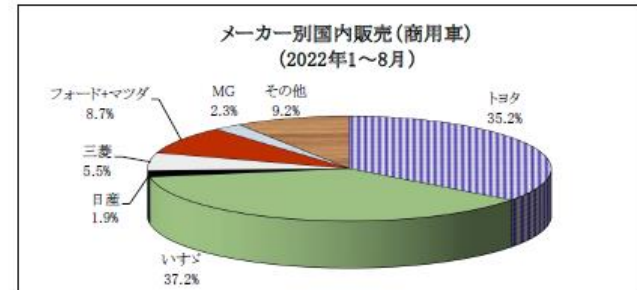
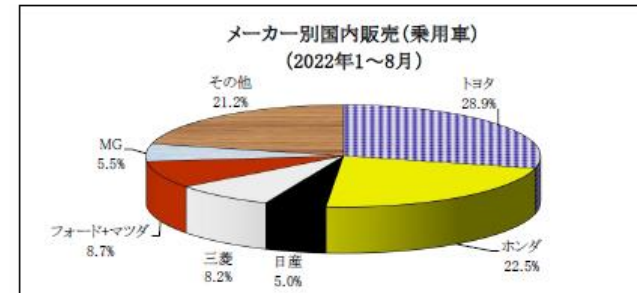
出所:タイ工業連盟 (FTI)

		2019年	2020年	2021年	2022年 (1-8月)	前年同期比 (%)	8月
【台数】 (台)							
四輪	生産台数						
	乗用車	804,340	542,437	599,844	355,673	92.7	53,573
	商用車	1,209,370	884,533	1,085,861	829,127	120.5	118,158
	合計	2,013,710	1,426,970	1,685,705	1,184,800	110.5	171,731
	国内販売台数						
国内販売台数	乗用車	398,386	274,789	251,800	177,617	17.7	22,530
	商用車	609,166	517,357	507,319	381,920	120.5	45,678
	合計	1,007,552	792,146	759,119	559,537	119.6	68,208
輸出台数		1,054,103	735,842	959,194	606,055	100.4	73,325
二輪	生産台数	1,948,480	1,615,319	1,780,654	1,277,332	109.2	189,707
	国内販売台数	1,718,587	1,516,096	1,606,481	1,212,275	111.0	171,835
	輸出台数	948,839	727,152	965,967	669,543	102.8	88,667
【完成車輸出金額】 (百万バーツ)							
四輪		545,968	410,912	561,147	368,003	105.2	49,362
二輪		69,933	85,802	75,985	45,831	84.7	6,279



出所:トヨタ自動車

		2019年	シェア (%)	2020年	シェア (%)	2021年	シェア (%)	2022年 (1-8月)	前年同期比 (%)	シェア (%)	8月
トヨタ	乗用車	117,708	29.5	68,152	24.8	62,403	24.8	51,395	135.7	28.9	7,405
	商用車	214,672	35.2	176,164	34.1	177,320	35.0	134,270	123.5	35.2	15,951
	合計	332,380	33.0	244,316	30.8	239,723	31.6	185,665	126.7	33.2	23,356
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車	168,215	27.6	181,194	35.0	184,160	36.3	142,029	120.5	37.2	15,858
	合計	168,215	16.7	181,194	22.9	184,160	24.3	142,029	120.5	25.4	15,858
ホンダ	乗用車	96,154	24.1	77,419	28.2	76,886	30.5	40,026	84.2	22.5	5,817
	商用車	29,679	4.9	15,622	3.0	11,806	2.3	14,462	193.8	3.8	1,254
	合計	125,833	12.5	93,041	11.7	88,692	11.7	54,488	99.0	9.7	7,071
日産	乗用車	35,809	9.0	27,120	9.9	19,790	7.9	8,802	65.2	5.0	879
	商用車	28,605	4.7	17,438	3.4	9,906	2.0	7,074	121.8	1.9	890
	合計	64,414	6.4	44,558	5.6	29,696	3.9	15,876	82.3	2.8	1,769
三菱	乗用車	38,879	9.8	22,363	8.1	18,456	7.3	14,562	130.0	8.2	1,592
	商用車	49,365	8.1	35,046	6.8	28,732	5.7	20,876	114.6	5.5	2,421
	合計	88,244	8.8	57,409	7.2	47,188	6.2	35,438	120.5	6.3	4,013
その他	乗用車	109,836	27.6	79,735	29.0	74,265	29.5	62,832	154.1	35.4	6,837
	商用車	118,630	19.5	91,893	17.7	95,395	18.7	63,209	107.4	16.4	9,304
	合計	228,466	22.7	171,628	21.8	169,660	22.3	126,041	126.5	22.6	16,141
合計	乗用車	398,386	100.0	274,789	100.0	251,800	100.0	177,617	117.7	100.0	22,530
	商用車	609,166	100.0	517,357	100.0	507,319	100.0	381,920	120.5	100.0	45,678
	合計	1,007,552	100.0	792,146	100.0	759,119	100.0	559,537	119.6	100.0	68,208



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。